

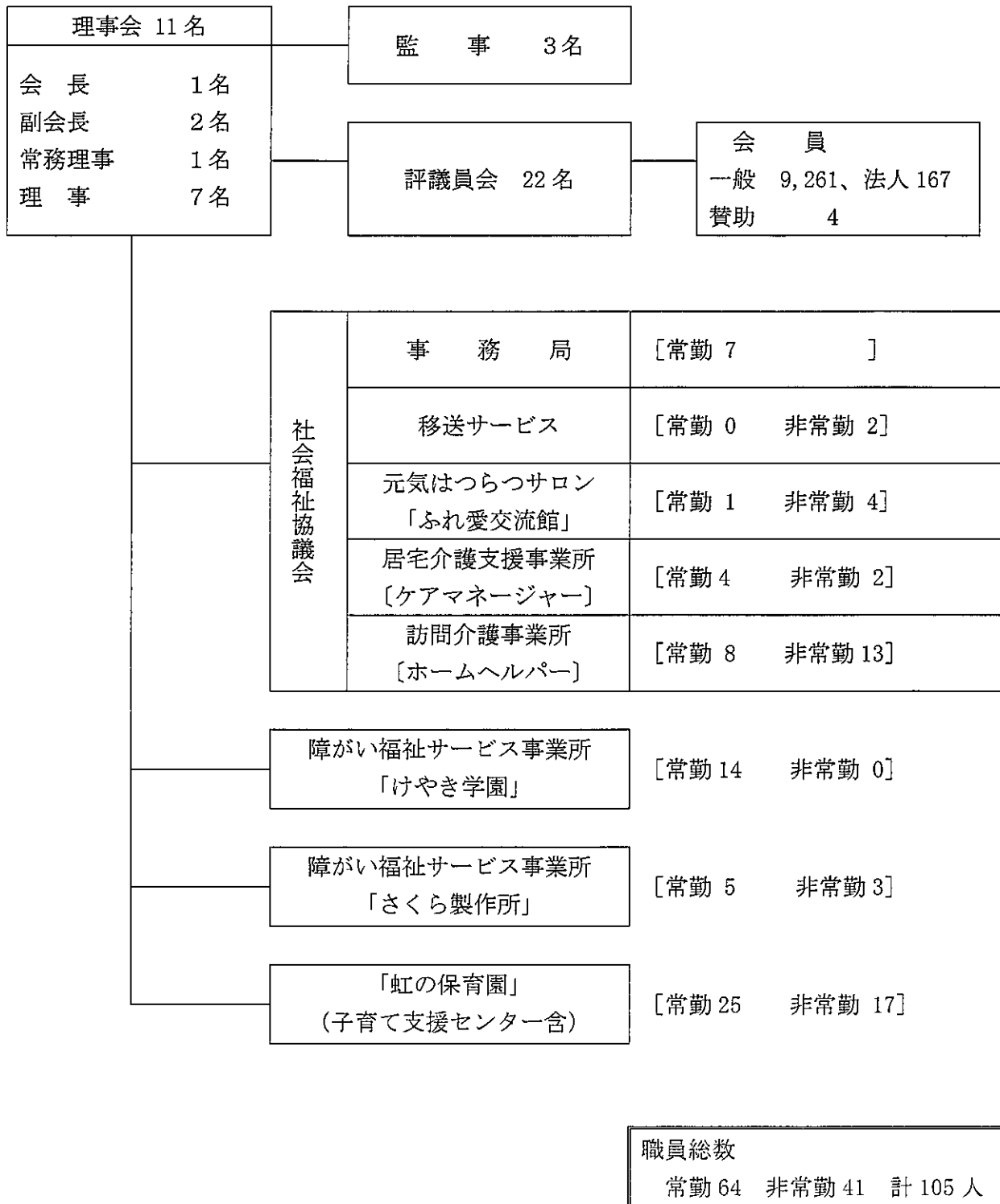
令和4年度

紫波町社会福祉協議会 事業報告書

第1 法人運営

1 組織

令和4年度組織図（3月末現在）



2 会 費

(1) 会 費

・個人会費 1,000 円 ・法人、賛助会員 3,000 円

(2) 実 績

・個人会費 9,260,677 円 ・法人会費 707,000 円 (167 法人)
 ・賛助会費 75,000 円 (4 団体) ・合 計 10,042,677 円

第2 福祉基金保有高等

前期末残高	当期取崩額	当期積立額	当期末残高
56,543,365 円	0 円	494,570 円 〔 寄付金 493,440 利息配当等 1,130 〕	57,037,935 円

福祉事業への寄付金 454,210 円

第3 会議・監査会の開催状況

1 理事会 理事定数 12 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第1回	5月24日	10 (3)	・令和3年度事業報告、決算 ・定款細則の一部改正 ・諸規程の一部改正 ・令和4年度補正予算(第1号) ・評議員候補者の推薦 ・評議員選任解任委員会の招集 ・定時評議員会の招集
第2回	12月15日	9 (3)	・諸規程の一部改正 ・評議員候補者の推薦 ・評議員選任解任委員会の招集 ・役員候補者の推薦 ・評議員会の招集
第3回	3月6日	10 (3)	・諸規程の制定 ・諸規程等の一部改正 ・児童サービス拠点における積立 ・令和4年度補正予算(第2号) ・役員等賠償責任保険契約 ・令和5年度事業計画、予算 ・評議員会の招集 ・第2次紫波町地域福祉活動計画
第4回	3月24日	決議の 省略	・事務局長の選任 ・訪問介護所長の選任

2 評議員会 定数 22 名、(監事 3 名)

	開催月日	出席者	議 題
第 1 回 定時評 議員会	6 月 10 日	19 (1)	・ 令和 3 年度事業報告、決算 ・ 定款細則の一部改正 ・ 令和 4 年度補正予算(第 1 号)
第 2 回	12 月 23 日	17	・ 役員の選任
第 3 回	3 月 16 日	17	・ 児童サービス拠点における積立 ・ 令和 4 年度補正予算(第 2 号) ・ 令和 5 年度事業計画、予算 ・ 第 2 次紫波町地域福祉活動計画

3 評議員選任解任委員会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 26 日	・ 評議員の選任
第 2 回	12 月 20 日	・ 評議員の選任

4 監査会

	開催月日	監 査 内 容
第 1 回	5 月 10 日	・ 令和 3 年度 1 月～3 月事業内容 ・ 令和 3 年度 1 月～3 月定例監査 ・ 令和 3 年度決算監査
第 2 回	7 月 25 日	・ 令和 4 年度 4 月～6 月事業内容 ・ 令和 4 年度 4 月～6 月定例監査
第 3 回	10 月 25 日	・ 令和 4 年度 7 月～9 月事業内容 ・ 令和 4 年度 7 月～9 月定例監査
第 4 回	1 月 24 日	・ 令和 4 年度 10 月～12 月事業内容 ・ 令和 4 年度 10 月～12 月定例監査

5 地域福祉団体との懇談会等

会議名	開催月日	出席者	内 容
町内社会福祉法人 連携ネットワーク推進協 議会	4 月 25 日	4	・ 事業と決算の報告（事業は買物支援） ・ 共同実施連携事業と予算 （書面議決）
たんぽぽ食堂の開催	4 月 27 日 から 5 回	延 27	・ こども食堂を地域の方々とともに安心 感がある居場所の提供を目指して中央 公民館で開催
地域福祉活動計画 策定委員会開催	7 月 5 日 から 4 回	延 47	・ 計画策定協議
地域福祉活動計画 作業委員会開催	7 月 15 日 から 6 回	延 127	・ 計画策定作業

6 B C P 計画策定に伴う他団体との協力体制推進

(1) 災害時支援協定

① 災害時等包括連携に関する協定

7 月 1 日（金） 特定非営利活動法人古館まちづくりの会

第4 福祉活動推進事業

1 広報

(1) 社会福祉協議会広報紙「社協だより」の発刊

社会福祉協議会事業の紹介の他、福祉情報を提供しました。

・発行回数 6回（全世帯と法人会員に配布）

(2) 「福祉声のおたより」の発行

朗読ボランティア「銀の鈴」の協力を得て、広報紙をCDに録音し、視覚障害者へ提供しました。

・録音項目 町広報、町議会報、社協広報他町内関連文書

・会 員 7名

・利 用 者 10名

(3) SNSの活用

社会福祉協議会の事業予定、報告その他福祉情報を多世代に向け、インターネットを活用し発信しました。

① Facebook（フェイスブック） 令和3年6月から運用 フォロワー数 223名

② YouTube（ユーチューブ） 令和4年5月から運用 チャンネル登録者数 2名

視聴回数 175回

③ Instagram（インスタグラム） 令和5年3月から運用 フォロワー数 68名

投稿数 7件

2 金婚を祝う会

長年苦楽を共に歩んできた夫婦の結婚50周年を祝し「金婚を祝う会」を開催しました。

・期 日 11月23日（水）・場 所 ラ・フランス温泉館 ホテル湯楽々

・参 加 者 2組、4名 ・記念写真・民謡、50年の思い出ビデオレター

3 福祉用具の貸出

(1) 車椅子貸出（保有 14台）

歩行困難者の日常生活支援のため、6か月間を限度に車椅子を無料で貸出しました。

・貸出延数 40台

(2) 福祉教育用具貸出

学校の福祉教育推進のため、福祉用具を無料で貸出しました。

・貸出延数

高齢者疑似体験セット（保有 19セット）2回 雫石町社協、古館小

(3) キャップハンディ体験

町内小中学校の福祉学習の際に、職員が車いす、白杖の体験の出前講座を行いました。

・出前講座 車いす・白杖体験 6回 日詰、古館、西の杜、赤石、
紫波東、二中

・福祉講座 金濱朋美氏 2回 西の杜、紫波東

近藤英一会長 1回 赤石

第5 地域福祉活動の推進

1 日常生活自立支援事業の支援

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などで日常生活上の判断能力が不十分な方でも適切に福祉サービスが利用できるように、福祉サービスの利用援助や日常生活に必要な金銭管理をお手伝いしました。

- ・利用者数 17 名（3 月末現在）
- ・生活支援員（紫波町担当） 3 名（週 1 ～ 2 回訪問）

2 資金貸付事業

(1) 生活福祉資金（県社協委託事業）

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		7 件	4,200,000 円	
内 訳	緊急小口資金	2 件	60,000 円	100,000 円
	福祉資金	2 件	1,583,000 円	対象経費による 50 万円～580 万円
	総合支援資金	0 件	0 円	単身 15 万円、2 人～20 万円
	つなぎ資金	0 件	0 円	必要最小限
	教育支援資金	3 件	2,557,000 円	

※前年度 6 件 2,604,000 円

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響による生活福祉資金（県社協委託事業）

資金名		件数	貸付総額	貸付限度額
当期決定貸付総額		9 件	2,150,000 円	
内 訳	緊急小口資金	6 件	1,200,000 円	
	総合支援資金	3 件	950,000 円	
	総合支援資金延長	0 件	0 円	
	総合支援資金再貸付	0 件	0 円	

※前年度 50 件 13,700,000 円

(3) たすけあい金庫

緊急出費を要し、援護の必要がある方を対象として資金貸付を実施しました。

- ・利用限度額 50,000 円
- ・当期利用状況 0 件

3 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）生活困窮相談支援事業【継続事業 町補助】

岩手県社会福祉協議会と連携し相談窓口対応を行い、継続的支援を要する場合には、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を示し、複合的な生活課題に対して町を含めた関係機関と連携し、個人や世帯への支援を行いました。

主な支援内容は、相談、同行支援（病院、銀行、不動産等）、食糧支援等です。

(1) 相談内容

収入・生活費、仕事、住居、債務税滞納、生保申請、健康通院療育、片付その他

(2) ふれあいカフェの実施

町民の困りごとや悩みごとの相談だけでなく、誰でも気軽に集まることができる居場所として『ふれあいカフェ』を開催しました。

・日 時 令和4年4月～5年3月まで 12回開催

・場 所 町総合福祉センター2階和室 ・参加者 延べ273名

(3) ふれあいミーティングの開催

個人や世帯に対し継続的に支援を行うため、本人の自立に向けた支援方針と達成目標等を、町を含めた関係機関と連携し情報共有を図り支援を行いました。

・令和元年4月から 毎月1回開催（オンライン等も活用）・町総合福祉センター

・町、県社協、町社協（CSW、SC）、障害者基幹相談支援センター（矢巾町）、

図書館司書、コミュニティーナース等

4 生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター）【継続事業 町委託 650千円】

町では、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業として、生活支援コーディネーターを配置し、資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取り組みのマッチングを行い、地域で暮らす人を支援する人やサービスをつなぐ取り組みを行いました。

(1) 取り組み

いこいの家や住民主体のサロンに出かけ、日常の暮らしぶりを聴いています。その中で地域でささえ合い、たすけ合いを実践している皆さんの活動をまとめた

『まちのあつまりっこ』を作成し、紫波中央駅待合施設や公民館に配りました。

(2) 町主催シンポジウムへ生活支援コーディネーターとして参画

～みんなが主役！見つけよう地域のつながり～お宝事例発表会

・日 時 令和5年2月18日（土）

・場 所 紫波町情報交流館2階大スタ ・参加者 72名

・講 師 特定非営利法人 全国コミュニティーライフサポートセンター
地域支え合い推進センター 参事 橋本泰典 氏

5 法人連携等による地域福祉活動支援事業

【継続事業、法人拠出】

地域福祉活動の中で見つかった生活課題に対して、地域での新しい支え合いを推進するため、解決に結びつく専門家・社会福祉法人・ボランティアと連携し関わるネットワーク形成を図りながら新たな取り組みを行いました。

(1) 町内法人連携による共同実施推進事業

① 買い物等支援事業

- ・日 時 令和4年4月から3月まで 第一水曜日 延べ12回実施
- ・車 両 5台（大樹会・紫波会・爽生会は各1台、社協2台）
- ・利用状況 登録者27名 利用実績 延べ245名
利用者は町中央部から離れた地域の方が利用しています。
- ・実施内容 盛岡南ショッピングセンターで買い物50分

② 就労準備支援ボランティア事業

一般就労を目指す中間的就労支援はコロナ禍で事業はできませんでした。

(2) たんぽぽ食堂及びフードパントリーの開催

ひとり親家庭等の子どもを対象に、地域の方々とともに安心感がある居場所を提供することで、地域全体で子どもたちを見守る・育てるきっかけになることを目指して開催いたしました。

- ・開催日等 4月～3月まで12回
- ・会 場 紫波中央公民館
- ・内 容 県主催の紫波町学習支援利用者と家族へ食事や食材を提供
- ・参 加 者 主に日詰地区 延べ148世帯521名
- ・財 源 寄付金と協力金479,657円
- ・協 力 者 民生児童委員等 延べ84名

6 高齢者安否確認システムの利用推進

【県社協事業】

独居高齢者を対象に、電話による安否確認システムの利用を推進しました。

- ・利用実績 1件

第6 共同募金配分、歳末たすけあい運動事業

- 1 地域交流イベント「ふれあいフェスタ」 【継続：共同募金 551,574 円】
障がいのある 20 歳から 63 歳までの方が作製した 21 点の作品を展示しました。
 - ・実施日 9 月 22～23 日（木金）10：00～14：00
 - ・場所 オガールプラザ内「紫波町情報交流館」
 - ・展示作品 障がいのある 20 から 63 歳までの方が作製した 21 点の作品を展示。
絵や書の平面作品には額を飾り付けたり、あみもの等の立体作品もあり工夫を凝らしていました。その他に町内福祉団体や事業所の紹介パネルや紫波総合高校の協力で親の会の家族写真の展示を行いました。
また、芝エリアでは 2 年ぶりに福祉事業所による販売を再開しました。
 - ・表彰 岩手県共同募金会長 1 団体、 町社会福祉協議会長 12 名
ふれあいフェスタ実行委員長表彰 5 名
- 2 福祉団体等への活動支援 【1,146 千円】
 - (1) 事務を受託している団体 (7 団体)
ボランティア連絡協議会、民生児童委員協議会、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、母子寡婦福祉協会、更生保護女性の会、手をつなぐ親の会
 - (2) 子育て支援 【60 千円】
就学前児童の子育てひろば（子育てサロン）を開催しているボランティアグループへ活動費の助成を行いました。
 - ・活動助成金 3 ひろば総額 78,000 円
 - (3) 行政区長協議会等への支援 コロナ禍により支援なし 【0 千円】
- 3 赤い羽根共同募金
 - (1) 募金運動
 - ・運動実施期間 10 月～12 月
 - ・募金実績額 6,126,083 円
 - (2) 福祉支援事業助成（1 件 5 万円限度）
 - ・決定団体数 10 団体
 - ・助成金額 500,000 円
 - (3) 社会福祉協議会が行う事業へ助成
 - ・事業数 4 事業 ふれあいフェスタ、いこいの家、社協だより
障害者団体等活動への助成
 - ・助成金額 4,456,760 円

4 歳末たすけあい運動

低所得世帯や母子・父子世帯や常時介護を要する方に、義援金を配分しました。

- ・運動実施期間 10月～12月 ・募金実績額 4,946,258円
- ・配分額 3,779,000円
- ・配分内訳

区 分		世帯・人員	単 価	金 額
要保護世帯	高齢者・母子等世帯	277世帯	11,000円	3,047,000円
常時介護を要する個人	寝たきり・認知高齢者、重度心身障害者	122人	6,000円	732,000円

第7 紫波町受託事業

1 無料相談事業「ふれあい相談所」

住民の抱えている課題解決に援助、協力するため、無料相談所を開設しました。

- ・実施日 毎月第1水曜日、 弁護士毎月第3水曜日
- ・場 所 福祉センター団体室
- ・相談員 人権擁護委員7名、弁護士1名
- ・件数内訳

生 計	年 金	職業・生業	住 宅	家 族	結 婚
0	0	1	0	1	0
離 婚	健康・衛生	医 療	精神衛生	人権・法律	財 産
2	0	0	0	54	4
事 故	児童・母子保健	教育・青少年	心身障害者	母子・父子福祉	高齢者福祉
0	0	0	0	0	0
苦 情	日常生活自立支援	その他			合 計
0	0	0			62

2 移送サービス

車椅子利用者等で一般の交通機関の利用が困難である高齢者や障がい者（町認定者）を対象として、病院や福祉施設等へ移送する有償のサービスを実施しました。

- ・利用登録者数 70名 ・利用延べ回数 467回
- ・運転手 3名 ・専用車両 3台

3 高齢者サロン「いこいの家」助成事業

町内のひとり暮らし老人や老夫婦世帯の孤独感解消や健康保持を目的に、ボランティアが実施する高齢者サロン事業「いこいの家」に、補助金を交付しました。

・交付額 1回 3,400 円（財源内訳 町 2.4 千円、社協 1 千円）

・地区別開催状況

日 詰	古 館	水 分	志 和
9 箇所 18 回	6 箇所 20 回	7 箇所 16 回	14 箇所 64 回
赤 石	彦 部	佐比内	赤 沢
5 箇所 9 回	6 箇所 9 回	4 箇所 8 回	8 箇所 16 回
長 岡	合 計		
5 箇所 12 回	64 箇所 172 回		

4 高齢者ふれあい交流会

65 歳以上の一人暮らし老人及び共に 75 歳以上の二人暮らし世帯を対象に、次の事業を実施しました。

(1) 日帰り温泉旅行はコロナ禍により実施しておりません。

(2) 配食サービス 毎週金曜日に昼食弁当をボランティアが配布しました。

・利用者	46 名（3 月末現在）	・利用者負担	1 食 300 円
・実施回数	52 回	・配食総数	2,209 食
・受託料	596,430 円	・利用者負担	662,700 円
・事業費	1,380,308 円	・事業者支払	1,124,198 円

5 三障がい者スポーツ交流会

障がい者の体力維持や交流を目的に、花巻市ハンドボール協会会長中島昭博様（県立花巻清風支援学校教諭）を講師にお招きし、コーディネーショントレーニング（ストレッチや球技など）を古館公民館ふれあいホールで行いました。

・開催日 令和 4 年 12 月 3 日（土） ・参加者 14 名

第8 ボランティアセンター事業

1 配食ボランティア

65 歳以上一人暮らしや、概ね 75 歳以上の夫婦世帯におかずを届けながら見守りの安否確認も行いながら、年間 52 回昼食配食のボランティア活動を行いました。

・利用者 46 名

(日詰 6、古舘 6、志和 2、赤石 13、彦部 2、佐比内 7、赤沢 2、長岡 8)

・ボランティア登録人数 32 名

2 高齢者サロン「いこいの家」ボランティア

各地区の「いこいの家」運営に、ボランティアとして携わりました。

・お世話延べ人数 785 名

・開催回数 172 回 ・利用者総数 2,294 名

3 ボランティア活動保険加入状況（合計 1,013 名は前年比-96 名）

区分	団体加入	個人加入	加入者計
基本タイプ	26 団体 1,008 名	5 名	1,013 名
天災タイプ	0 団体 0 名	0 名	0 名
行事保険タイプ	0 団体 0 名	0 名	0 名

4 フードバンクへの協力

町内に設置された食品回収ポストへの協力食材を、これまでに 6 回フードバンク岩手（盛岡市）へ届けております。

第9 職員研修

1 紫波町社会福祉協議会職員研修

(1) 実施日時 1 月 20 日（金）午後 6 時 00 分から ・参加者 61 名

・内 容 「気持ちよく働いて、いい仕事をする職場作り ～私たちから職場を元気に！健康経営のために今、すべきこととは？～」

・講 師 CO. CORO サポート 代表 藤村七美氏

(2) 実施日時 3 月 16 日（木）午後 6 時 30 分から ・参加者 61 名

・内 容 令和 5 年度事業計画等について 小田中事務局長
育児休業等について 佐藤主任主査
第 2 次紫波町地域福祉活動計画について 作山主任主査

令和4年度

介護事業報告書

1 介護事業の状況

介護が必要な高齢者及び障がい者が、住み慣れた自宅で安心して暮らせるように、利用者自身が個々に持っている力を引き出し、その力を支え生かしながら各種の支援・介護を行いました。

2 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

介護保険において要介護認定を受けた方の介護サービス計画（ケアプラン）の作成、見直し及び介護サービスに関わる連絡・調整等を実施しました。

- ・利用者数（3月実績） 148名 要支援 20名含む。（前年度179名）
- ・介護支援専門員数 6名（前年度5名）
- ・総収入額 31,769,260円（前年度比-924,560円）
- ・令和3年度に3年に1回の報酬改定が行われ1.8%報酬単価が上がりました。

3 訪問介護事業（ホームヘルパー派遣）

要介護認定者（1～5）と要支援者（1・2）に加え、それに準じた方（事業対象者）に対しても訪問介護サービスを提供しております。

平成31年4月から、勤務シフト作成ソフトとスマホを活用したことで、勤務日程と勤務内容報告等を紙媒体から電子媒体保存となり業務効率が改善されました。

・訪問介護利用実績

（単位：人、回、時間、千円）

年 度 区 分		29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
実利用者数	事業対象者	1	0	1	1	0	0
	要支援1	1	1	1	1	1	1
	要支援2	11	11	6	12	8	9
	要介護1	24	24	38	28	32	28
	要介護2	13	23	24	21	21	18
	要介護3	17	11	17	12	12	14
	要介護4	7	6	4	6	5	6
	要介護5	8	1	2	2	4	2
計		82	77	93	83	83	78

派遣回数	身体介護	8,010	6,685	5,185	6,669	5,984	5,568
	生活援助	3,543	2,046	1,298	1,169	868	512
	身体・生活	2,361	2,698	3,007	2,485	2,231	2,219
	介護予防	123	0	0	0	0	0
	現行相当	420	649	510	739	534	463
	計	14,457	12,078	10,000	11,062	9,617	8,762
派遣時間	身体介護	5,250	4,770	4,060	4,914	4,103	3,881
	生活援助	3,603	2,048	1,366	1,191	908	533
	身体・生活	3,163	3,630	4,147	3,332	2,069	2,054
	介護予防	507	0	0	0	0	0
	現行相当	542	756	555	554	518	362
	計	13,065	11,204	10,128	9,991	7,598	6,830
収入額 (介護報酬)		48,068	41,390	39,279	41,463	35,322	32,947

- ・事業費 32,947,548 円（前年度比 -2,374,482 円）
- ・平成 31 年 4 月から特定事業所加算（10%）2,722,937 円を含みます。
- ・介護予防サービスは、平成 29 年度から現行相当サービスとなりました。
- ・令和 3 年度に 3 年に 1 回の報酬改定が行われ 0.5%報酬単価が上がりました。

4 障害者居宅介護事業（ヘルパー派遣）

障害者総合支援法における利用者へ居宅介護サービスを提供しました。

- ・利用実績 (単位：人、回、時間、千円)

区 分 \ 年 度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度
派遣対象者数	22	18	17	19	16	16
派遣回数	2,640	2,549	2,756	2,658	2,112	2,139
派遣時間	2,110	1,984	2,206	2,069	1,511	1,569
自立支援費収入	7,266	6,471	7,178	7,236	5,004	5,135

- ・事業費 5,135,492 円（前年度比 +131,364 円）
- ・令和元年 10 月から特定事業所加算（10%）462,163 円を含みます。

5 障害者外出介助事業（ガイドヘルパー派遣）

【継続事業 町委託】

町認定の障がい者を対象として、ガイドヘルパーを派遣し、外出介助を実施しました。

- ・利用者数 6 名（前年度 4 名）
- ・派遣回数 163 回（前年度 116 回）
- ・派遣時間 207 時間（前年度 169 時間）
- ・事業費 316,600 円（前年度比 +61,675 円）

6 基準緩和訪問型サービス（ホームヘルパー派遣）

介護保険要支援に準じ、町認定者チェックリストで判定された高齢者を対象に、週1回ホームヘルパーを派遣してきました。平成29年から事業を基準緩和型サービスとして継続し、週1回だった利用回数が平成30年7月からは週2回まで認められています。

・利用実績

（単位：人、回、時間）

年度 区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
派遣対象	20	21	23	25	21	25
派遣回数	417	1,117	1,238	1,377	1,172	1,217
派遣時間	308	837	922	1,047	879	913

・受託金額 2,420,048 円（前年比+89,912 円） 派遣対象者は年度末の実績

・事業名 29年度から基準緩和訪問型サービス、28年度までは「生活指導員派遣事業」

7 緩和型訪問かいご者養成研修

【継続事業 町委託】

学んで実践！！介護講座

・日 時 3月9日～10日（木金）

・会 場 オガール

・主 催 紫波町

・参加者 8名

・内 容 コミュニケーション技術、事故防止・緊急対応、生活支援技術

講師は紫波町職員、数カ所の介護サービス事業所。社協からはヘルパー4名で対応しました。

8 元気はつらつサロン「ふれ愛交流館」

【継続事業 町委託】

介護保険要支援者とそれに準じた高齢者（町認定者）を対象に実施しました。

・開設日数 195日（火曜日～金曜日）（前年度188日）

・開設場所 福祉センター

・登録者数 26名（3月末現在）（前年度28名）

・延べ利用者数 1,139名（前年度比-229名）

・実施内容 健康管理、趣味創作、給食、季節行事他

・事業費 6,200,208 円（前年度比-524,757 円）

※介護支援区分より1,130,758 円繰入

[illegible][illegible]

令和4年度は、コロナ感染症対策の中で、当園の保育の在り方や内容を常に考える年でした。その中で、子どもたちの明るい表情や楽しそうな声、園庭を駆け回る元気な姿、そして、保護者の方の理解と協力、地域の皆様の温かい声は、保育園にとって何よりもの支えとなりました。今後も、子どもたちが一日一日を安心して楽しく有意義に過ごすことのできる場として、子どもと共にある保育、保護者と共に進める保育を、職員一同実践してまいります。

1 令和4年度 年間行事経過報告

4 月	1 日	辞令交付式及び新人研修
	4 日	入園式
	5 日	進級式
5 月	10 日	交通安全教室
	23 日	前期 内科健診 (0, 1, 2 歳児)
	25 日	田植え体験 (5 歳児)
	30 日	前期 内科健診 (3, 4, 5 歳児)
6 月	1 日	交通安全教室
	6 日	個人面談 (0 歳児)
	9 日	前期 歯科健診 (全園児)
		イングリッシュタイム (4, 5 歳児)
	20 日	個人面談 (1 歳児)
7 月	2 日	夏まつり (全園児)
	7 日	イングリッシュタイム (4, 5 歳児)
		職場体験学習 (紫波第三中学校) 1 名
	8 日	保育参観 (5 歳児)
	22, 25 日	紫波総合高校インターンシップ 1 名
8 月	15 日	事務員 (有期契約職員) 採用試験
	18 日	保育実習 (北日本医療福祉専門学校) 1 名 10 日間
		施設実習 (盛岡医療福祉スポーツ専門学校) 1 名 1 日間
	22 日	保育実習 (盛岡大学) 1 名 10 日間
	23 日	令和 5 年度就学児童ことばの検査
	26 日	保育参観 (4 歳児)
9 月	1 日	施設実習 (盛岡医療福祉スポーツ専門学校) 1 名 2 日間
	27 日	岩手県保育指導監査受検
	28 日	職場体験学習 (紫波第一中学校) 2 名
	29 日	職場体験学習 (紫波第一中学校) 2 名
		稲刈り見学 (5 歳児)
10 月	1 日	運動会 (3, 4, 5 歳児)
	3 日	交通安全教室
	4 日	運動会ごっこ (0, 1, 2 歳児)

	5日	キッズサッカー (4, 5 歳児)
	7日	保育参観 (3 歳児)
	12日	遠足 花巻広域公園 (5 歳児)
	14日	七五三参り
	19日	キッズサッカー (4, 5 歳児)
	20日	炊飯クッキング (5 歳児)
	24日	後期 内科健診 (0, 1, 2 歳児)
	25日	職場体験学習 (紫波第三中学校) 2 名
	27日	令和 5 年度職員採用試験
	28日	りんご狩り 長岡 (5 歳児)
	31日	後期 内科健診 (3, 4, 5 歳児)
11 月	5日	後期 歯科健診 (全園児)
	26日	発表会 (2, 3, 4, 5 歳児)
12 月	8日	イングリッシュタイム (4, 5 歳児)
	12日	保育実習 (盛岡誠桜高等学校) 1 名 10 日間
	26日	クリスマス会
1 月	12日	イングリッシュタイム (4, 5 歳児)
	13日	小正月 志和公民館 (4, 5 歳児)
	14日	親子陶芸教室 (5 歳児)
2 月	3日	節分 豆まき (全園児)
	9日	イングリッシュタイム (4, 5 歳児)
	21日	味噌作り (5 歳児)
	28日	5 歳児お別れ会
3 月	3日	ひな祭り
	18日	卒園式
	22日	新年度準備職員会議

2 保育業務実施状況

子ども子育て支援新制度において、保護者の保育希望理由、希望必要量により、市町村の給付認定 (1～3 号) を受け、利用をすることとなっている。当園は、「保育所」であるため、2 号認定 (3～5 歳)、3 号認定 (0～2 歳) の保育を実施しました。

(1) 児童数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
定員	12	18	18	20	26	26	120
4 月	5 (8)	17 (18)	23 (23)	26 (22)	23 (24)	23 (29)	117 (124)
10 月	10 (10)	19 (19)	23 (23)	26 (22)	23 (24)	23 (29)	124 (127)
3 月	14 (12)	19 (19)	23 (23)	26 (22)	23 (24)	23 (29)	128 (129)

() 内は令和 3 年度児童数

(2) 年間入退園児童数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	19	3	1	1	0	2	0	1	1	2	1	0	31
退園	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

(3) 職員数

令和5年3月現在

園 長	1 名（常勤）
保育士	29 名（常勤 19 名、非常勤 10 名）
調理員（栄養士除く）	5 名（常勤 2 名、非常勤 3 名）
看護師	1 名（常勤）
栄養士	1 名（常勤）
事務員	1 名（常勤）
その他	子育て支援員 3 名（非常勤）保育補助 1 名（非常勤）
計	42 名

3 保育内容

【保育理念】

自然豊かな地域の温かい環境に守られ、子どもの最善の利益を考慮し、子どもの福祉の増進を支えます。

一人一人の子どもの幸せのために保護者及び家庭、地域社会と手を結び、すべてにおいて気くばり、心くばり、目くばりの「心」ある保育の増進に努めます。

平成 16 年 4 月 1 日

保育理念、保育目標に基づき、保育全体計画、保育年間計画を作成し、個々の発達を大切にした保育を実践しました。

- ① “遊ぶ力” の獲得を目指す取り組みを実施
- ② 人として生きる力の基礎を培う取り組みを実施。
- ③ 集団の中で個々が育ち合う取り組みを実施。
- ④ 絵本による豊かな心情作りを実施
- ⑤ 畑での野菜の栽培を実施
- ⑥ 稲作体験・味噌作り体験の実施



園近隣散歩

4 特別保育実施状況

(1) 延長保育

在園児を対象に月曜日から土曜日まで開設時間を延長し、保育を実施しました。

- ・ 時 間 午後 6 時～7 時
- ・ 利用者 日単位利用登録延べ人数 36 名、利用延べ人数 348 名
月単位利用登録延べ人数 10 名、利用延べ人数 773 名（年間）

(2) 一時保育

満 1 歳以上の町内在住幼児を対象に、月曜日から土曜日まで時間単位での預かり保育を実施しました。

- ・時 間 午前 8 時～午後 6 時
- ・利用者 23 名

年 度	29 年度	30 年度	令元年度	令 2 年度	令 3 年度	令 4 年度
利用人数	166	149	232	16	108	23

(3) 休日保育

満 1 歳以上の在園児を対象に日曜日、祝日、年末に保育を実施しました。

- ・時 間 午前 8 時 30 分～午後 5 時
- ・利用者 76 名

年 度	29 年度	30 年度	令元年度	令 2 年度	令 3 年度	令 4 年度
利用人数	200	168	124	64	51	76

5 防災訓練実施状況

災害発生時に備え、職員、在園児、子育て支援センター利用者、一時保育利用児すべてを対象に訓練を実施し、災害時の対応について啓発活動を行いました。

- ・定期訓練 毎月 1 回（消防署指導 1 回）
- ・土曜日訓練 年 3 回
- ・定期救命講習の受講（岩手日赤支部）

月日 時間	設定	子どもの動き	避難場所	職員の訓練や学習内容
4/26 10:00	指導	・非常ベルを聞く ・合図を聞いて保育者の所に集まる	遊戯室	・避難経路、役割分担を話し合う ・消火器設置場所確認
5/24 10:00	熊 対策	・熊が出た時の身の 守り方を知る	遊戯室	・熊についての知識、対応を学ぶ 紫波町産業部環境課講師
6/23 10:00	火災隣 接家屋	・保育者の指示に従 い避難場所に移 動する	第 2 避難場所 隣接小学校校 庭	・園周辺の避難場所を確認 ・乳児の避難方法を話し合う ・防災教材による啓発
7/27 9:45	地震 火災	①押さない ②走らない ③しゃべらない ・3 つの約束を身に 付ける	第 1 避難所 から河原へ	・非常持ち出し用品の点検 ・避難所への速やかな誘導方法の 確認 ・消火器、消火栓の場所を知る

8/24 17:00	火災 北側 隣家	・保育者の指示に従い避難場所に移動する	第一避難所	・降園時間帯の安全な避難方法を確認 ・避難路が確保されているか確認
9/28 10:00	台風 水害	・身支度をし、保育者の傍に集まる ・台風の視聴覚教材を見て水害時の避難について知る	保育室 その後、遊戯室に集まる	・台風による被害状況を全体に伝え、園の対処方法を園内に周知する ・水害の場合の各家庭への連絡方法を確認する
10/25 10:00 警察署 依頼	不審者	・保育者の側に集まる ・指示に従い行動する	保育室	・不審者に気付き、園児を安全に避難させる ・職員相互の連携により不審者に対応する ・対応について、生活安全課職員よりアドバイスをいただきながら気づきを話し合う
11/29 9:45 消防署 依頼	地震	・近くにいる保育者の側に集まる ・消防士の講話 ・DVDによる学習	保育室 遊戯室	・避難路は確保されているか確認 ・通報訓練 ・水消火器を用いての消火訓練
12/27 12:00	火災 北側 隣家	・食事を中断し、椅子を机の下に入れて保育者の指示に従う	保育室各避難口	・給食時の避難お約束事項を確認 ・冬季における避難について再度確認を行う
1/25 14:45	地震	・落ち着いて指示を聞き避難する	保育室	・冬場の避難路は常に確保されているか確認する。 ・午睡時の避難方法を職員で確認
2/21 11:45	火災 給食室	・放送機器が使えないとき時の避難を経験する ・保育者の指示を聞いて避難する	保育室	・避難路の確保がなされているか確認。 ・消火栓周辺の除雪状況の確認 ・放送機器故障の場合の園内への周知方法の確認
3/24 10:00	地震	・地震と火災の違いを知り安全に避難する方法をみんなで話し合い、1年の反省を行う	保育室 遊戯室	・1年間の反省を次年度計画へ活かすよう、意見を出し合う

6 給食実施状況

(1) 給食実施結果

厚生労働省が示す食事摂取基準に基づき乳幼児にとって適切な給与栄養量を確保できるよう、子どもの発育、発達状況、家庭環境、栄養状態を考慮しながら年間の食育計画を立案しました。また0歳児については、入園時点での月齢を基準とし、家庭と連絡を取りながら個々の成長に合わせた離乳食を進めました。

(2) 食育啓発活動

- ①献立表の配布
- ②給食サンプルの展示
- ③誕生会昼食会
- ④食事マナーの習得
- ⑤地産地消の推進
- ⑥調理の取り組み
- ⑦アレルギー除去食の提供
- ⑧おやつタイムの開催
- ⑨歯科指導（令和4年6月22日実施）



5歳児 お別れ会希望献立
いちごパフェです

(3) 衛生管理

- ①給食安全管理に基づいた安全な調理の実施
- ②職員細菌検査の実施

4月（全職員）毎月（給食従事者、0歳児担任）ノロウイルス（給食従事者）

- ③新型コロナウイルス感染症対策の実施

玄関での児童の送迎、検温、体調観察、職員の検温、保育室内の消毒を行いました。

- ④健康に関する情報（保健だより）の発行を行いました。

7 保護者との連携

(1) 父母の会

新型コロナ禍における園行事の開催について、父母の会会長と相談し、感染対策を行いながら、各行事を実施しました。

(2) 保護者

- ①令和2年度からの玄関先での送迎への協力、感染に関連する事象が発生した場合についての対策についての理解と協力をしてくださることにより、保育を継続することができました。
- ②個別面談を実施し、お子さんの保育園での様子や家庭での様子、心配事や保育園への希望などいつもの送迎では中々できない話をする機会を作りました。

8 地域交流

(1) 異世代間交流

虹の保育園地域子育て支援センター高齢者クラブ（そよかぜクラブ）との交流畑での野菜作りを通して、苗の定植、収穫の際の交流を行いました。

(2) 関係団体との交流

- ①近隣地区老人クラブさんに
園舎中庭や野菜畑の整備を
行っていただきました。
- ②志和公民館にて、地域の方々と
伝統行事（小正月行事）に参加し
交流を行いました。



地域の方と雪田植えをしているところ

(3) 普及、啓発活動

- ①園行事の様子を社協広報に掲載しました。
- ②保育の様子、行事等を園だよりで伝えました
- ③園内に入ることができない状況の中、玄関に園児が描いた絵や作品、保育の様子（ドキュメンテーション）を掲示し、保育の様子を伝える試みを行いました。
- ④健康及び感染症に関する保健だよりを発行しました。
- ⑤給食だより、献立表を発行しました。

9 卒園児就学予定小学校との連携

- ①児童の就学予定校との申し送りを行いました。（町内小学校 4 校）
- ②保育所児童保育要録（平成 29 年全部改正、平成 30 年 4 月施行保育所指針に則る）を
児童の就学校へ送付しました。

10 諸会議の開催及び参加

(1) 職員会議

- ① 職員全体会議（毎月 1 回）
- ② 給食担当者会議、乳児部、幼児部リーダー会議
- ③ 乳幼児部連絡会議の開催（隔週）

(2) 関係機関の会議への参加

- ① 紫波町福祉相談窓口連携会議
- ② 紫波町幼児教育連絡会
- ③ 西の杜学園学校運営協議会

11 実習生、職場体験学習生の受け入れ

保育実習生	3 校	3 名
施設実習生	1 校	2 名
職場体験学習生	2 校	7 名
高校インターンシップ	1 校	1 名



園内研修の様子

12 職員研修の実施

(1) 園内研修の実施（職員全体研修）

①「子どもの食生活について」 講師 ぶどうの丘助産院 助産師 吉田 蘭
(令和4年12月2日)

②「防犯訓練の振り返りⅠ」 (令和5年2月17日)

③「防犯訓練の振り返りⅡ」「食育について」(令和5年3月10日)

(2) 保育士キャリアアップ研修の受講（オンライン研修）

障がい児保育（4名） 食育アレルギー（1名） 幼児保育（3名）
保健衛生（2名） マネジメント（2名） 乳児保育（5名） 計 17 名

(3) その他外部研修

- ① 市町村社会福祉協議会 新任職員研修（令和4年4月25日）
- ② 児童保育施設職員 療育研修会 (令和4年7月2日)
- ③ 夕焼け勉強会&子育て応援勉強会 (令和4年11月19日)
- ④ 紫波町保育施設職員 幼児教育講演会（令和4年11月23日）
- ⑤ 幼保小連携推進研修会 (令和4年11月28日)
- ⑥ 紫波町子ども虐待対応多層多職種研修（令和5年2月14日）

13 苦情・相談の受付

(1) 苦情… 0件

(2) 相談…コロナ感染症関連 40件、家庭関係 3件

14 事故・ヒヤリハット報告

(1) 事故…7件

対象児童	月日	内容	園の対応
①4歳児 女児	令和4年 4月22日 10:50	園庭で鬼ごっこをしている時。 本児が鬼から逃げようと走り 出した際、進行方向にあった固 定遊具に気付かず衝突した。	・事故直後患部を看護師確認。左 前額部腫脹、皮下出血、痛み有。 眼球の動き異常なし、嘔吐めま い等の自覚症状なし。冷却安静 にし要経過観察をする。 ・保護者へ連絡。受診をお願いし た。異常は見られないため自宅 で経過観察の診断。
②4歳児 女児	令和4年 5月20日 9:35	保育士が折り畳み式のテーブ ルを組み立てていた際、テーブ ルの脚のロックが不十分だっ た為、保育士の傍にいた本児の 右足の甲にテーブルが倒れた。	・事故直後患部を確認。右足の 甲に2cm程の赤い線と青みの ある皮下出血有。患部に絆創膏 と冷却シートを貼る。 ・腫れる様子なく足をついて歩い ている。

			・保護者へ事故の連絡。要経過観察をする。
③3歳児 男児	令和4年 7月5日 17:30	本児が保育室で友だちを追いかける。友だちはその行動を嫌がり本児の左目に向かって指をつく。	・事故直後患部を確認。左目の白目部分が赤い。濡れタオルで患部を冷やす。 ・保護者へ事故の連絡。受診をお願いした。眼球の出血は見られるが傷なし。点眼薬使用し治療。
④4歳児 男児	令和4年 7月13日 8:40	本児が遊戯室で友だちと、玩具の取り合いをする。その際、噛みつきがあり、本児の右側の鼻の下、上唇の上から出血。	・事故直後患部を確認。本児にうがいをするよう伝える。要経過観察をする。
⑤3歳児 男児	令和4年 9月21日 10:00	運動会リハーサル退場時。本児の後ろにいた友だちに押され転倒。そこに友だち2名が覆いかぶさるように転倒。本児顎と上唇から出血し腫れる。	・事故直後患部を看護師確認 ・上唇と顎の擦り傷、上唇内側からも出血が見られた。痛み有止血と冷却をする。5分程で止血し痛みの緩和が見られた。 ・保護者へ連絡、報告。受診し経過観察の診断。
⑥3歳児 男児	令和4年 9月22日 11:00	園庭で遊び終え、保育室に戻ろうと走って行った時。後ろの友だちに気を取られて、花壇に引っ掛けて転び固定遊具に左頬をぶつける。	・事故直後患部を看護師確認 ・左頬に擦り傷と皮下出血が見られた。擦り傷部と口腔内の出血は見られない。患部を冷却し経過を見る。腫れは増強せず痛みの緩和見られる。 ・保護者へ連絡、報告。保護者より経過観察の希望有。
⑦3歳児 女児	令和5年 2月22日 15:55	おやつ後のうがいが終わりコップ片付けの時間。友だちが本児の前にあった椅子を片付けようとしたところ、友だちがぶつかり本児が転倒。椅子の背もたれに顎とのどをぶつける。	・事故直後患部を担任確認。 ・顎からのどにかけて擦ったように赤くなっていたため冷却シートを貼って様子を見る。 ・保護者へ報告。受診し経過観察の診断。

(2) ヒヤリハット報告…17件

対象児童	月日・時刻	状況	対応・改善対策
①1歳児 男児 女児	令和4年 4月28日 11:50	午睡前に廊下で遊んでいた時間、柵につかまり立ちをしていた男児が柵ごと転倒。近くで、	男児は額、女児は目の横が少し赤く腫れていたため冷却シートを貼り様子を見る。二人共降園時には、

		しゃがんで遊んでいた女児の顔に柵が当たる。	腫れ赤みも無くなる。降園時に、保護者に状況を伝え謝罪をした。柵につかまり立ちをすると、倒れやすい。また柵の近くにいる子どもには注意深く見ていく。
②2 歳児 男児	令和 4 年 4 月 28 日 12 : 30	順番に子ども達を呼び午睡前の排泄を行っていた時。 出していたテーブルの下に本児が入り、脚の開閉レバーを引き、テーブルの天板が落下し本児の顔にぶつかる。	すぐに天板を持ち上げ視診すると鼻血が出ていたため止血をする。保護者に状況を伝え謝罪をした。子どもが遊んでいる空間ではテーブルは出さないようにする。テーブルの下に入っている所を発見した際は、その都度言葉をかける。
③給食調理	令和 4 年 5 月 2 日 15 : 00	ゴールデンウィーク前に、5 月 2 日のおやつと牛乳を準備。 5 月 2 日、各クラスに牛乳とおやつを提供した際に、保育士が牛乳の賞味期限の日付が 5 月 1 日の物である事に気付く。	子ども達が飲む前に気付いたので、賞味期限が切れた牛乳は回収した。 連休や平日と休日が交互にあるような時に、牛乳を用意する場合、日付の確認が必要。その期間内に期限の切れる牛乳は置かないようにする。2 人以上の職員で確認する。
④0 歳児 保育室	令和 4 年 7 月 8 日 10 : 25	0, 1 歳児合同で水遊びをし 1 歳児の体を拭いている時。 1 歳児担当の職員がマットの角に落ちてあるボタン電池を発見する。	つねに危険物はないか保育室の安全確認をする。また、玩具から電池が外れてしまうこともあるので、ネジが固定されているか確認する。
⑤1 歳児 男児	令和 4 年 7 月 25 日 17 : 35	避難車に子ども達 5 人を乗せていた際、保育者が避難車を押していた所から反対側に移動した時、本児が避難車から落ち泣く。	すぐに抱き上げ本児が怪我等していないか視診をする。本児に怪我、腫れは見られなかったが様子を見ていく。降園時に、保護者に状況を伝え謝罪をした。また、家庭でも様子を見て頂くようお願いもした。翌日登園した際、家庭では変わった様子は見られなかったとの事。再度、謝罪をする。 危険のないよう避難車の側について目を離さない。危険な行為が見られた場合は言葉をかけて知らせていく。

⑥0 歳児 女児	令和 4 年 7 月 27 日 11 : 10	職員の介助のもと、食事をして いた本児が口から鮭の骨を出し 保育者に渡す。それによって鮭 の中に骨がまじっていたことに 気付く。	食事を進めるにあたって、運ばれ てきた物を確認しながら（特に魚 の骨）介助していく。調理室内に おいても、魚を離乳食として提供 する時は、骨の有無を職員複数人 で確認する。
⑦3 歳児 女児	令和 4 年 8 月 4 日 11 : 25	給食時、本児がうなぎ入り卵焼 きを食べている最中に、口から うなぎの骨を出した。本児は口 の中を切る等なく、その後も通 常通り食事を再開した。	調理室では、うなぎを細かく切っ てうなぎのタレと酢を入れ手でよ く混ぜ合わせ骨がないか確認し た。その際、骨に気がつかなか った。 調理室では、魚の骨は複数人で目 視し、手で触って確認する。
⑧3 歳児 女児	令和 4 年 8 月 9 日 12 : 55	午睡時の布団に入り始めた時。 本児が寝ようと横になるが、敷 パットに縫い針があることに気 付き担任に渡して来た。	保護者の方に園に持参する前に危 険な物がないかの確認をして頂 く。また、保育者も布団を敷く際 に手で触って危険な物がないか確 認していく。
⑨0 歳児 女児	令和 4 年 8 月 12 日 9 : 45	0 歳児～2 歳児が 2 歳児クラスで 磁石の玩具で遊んでいる時。 一つの玩具が分解されてあるの を保育者が見つける。一つの部 品がないことに気付き探したと ころ本児が口に入れているの を見つけた。	口に入っている部品を取り出し怪 我、異常がないことを確認し様子 を見る。 壊れた玩具は、劣化による物であ ったので処分する。 特にも、乳児は誤飲することがな いように十分気をつける事。劣化 し危険と思われる玩具は使用しな いよう全職員に報告し周知した。
⑩0 歳児 女児	令和 4 年 8 月 15 日 9 : 20	お盆申請保育のため、合同保育 を行った。本児は 1 歳前で、お 茶と白せんべいを提供しなければ いけなかったが、確認不足で 牛乳を飲ませてしまった。（担任 外職員）クラス担任が場を離れ る時本児に提供するおやつにつ いて伝達していなかった。	その場では気付かず、14 時頃に気 付く。園長に報告し家庭に状況を 説明し謝罪した。体調に変化なく 経過し、迎えの際改めて経緯と経 過を保護者に伝える。 お盆休み、土曜、祝日の保育の時、 担任外が乳児のおやつを提供する 時は、必ず確認してから提供をす る。
⑪1 歳児 男児	令和 4 年 8 月 31 日 10 : 40	水分補給を行っている際に、本 児が友だちの水筒をとり、立っ ている状態で床に水筒を投げ破 損する。今回は、子どもが怪我	水分補給を行う際は、子ども達が 座った事を確認してから水筒の入 ったカゴを置き、一人ひとりに手 渡しで渡す事を徹底していく。ま

		をする事はなかったが、水筒が落ちた場所に子どもがいた場合、怪我に繋がっていた恐れもある。	た、子ども達が自分以外の水筒を持つ様子が見られた際には、カゴを置く場所を職員間で確認していく。
⑫0 歳児 男児	令和 4 年 9 月 14 日 10 : 30	室内あそびをしていた際に、本児の上顎歯茎から出血しているのを保育者が発見する。発見するまでに転倒やトラブルなどはなく、本児が泣くこともなかった。本児はよく動き、転倒もしやすいため、いつ、どこで何をして出血したのかわからない状態であった。	全体に目を配って保育をしていた中での状況であったが、子どもは予想外の行動をすることもあるので、さらに子ども達一人ひとりに目を配り安全に過ごせるように努めていく。
⑬給食調理	令和 4 年 11 月 1 日 11 : 00	給食時。 食べやすくほぐされた鮭の中に青いビニール片が付着していたのを保育士が目視で確認。栄養士に伝え食べていた給食の方も確認するため、新たに盛り付け新しい物と取り替えた。	魚の骨除去の際には今までのビニール手袋（青）からゴム製の手袋（青）に替えていく。（ゴム製の方が破れづらくビニール片など出にくい） 魚に限らず盛り付け、配膳など 2 名以上の職員で目視確認する。
⑭1 歳児 散歩コース	令和 5 年 1 月 16 日 10 : 20	園の近隣の建物の裏側の歩道を散歩している際に、子ども達の列のすぐ後ろ側で屋根から雪が勢いよく落ちてきた。落雪した場所を通り過ぎていたため、子ども達に雪が当たることはなかったが、危険を感じた。	冬場の散歩コースの確認。 建物の屋根がない側の歩道を歩くなど、安全に散歩ができるようにしていく。
⑮給食調理	令和 5 年 1 月 23 日 10 : 30	調理室で、ほうれん草に味付けをしている時、ビニールの破片を見つけた。栄養士に報告、その後園長に報告相談し、ほうれん草の和え物は提供せず代用でキャンディーチーズとプルーンに変更した。	今回、ほうれん草が入っていた袋が簡単に手で破けることが出来る素材であった。今後もこのような袋で納品されることを想定し、ほうれん草を袋から開ける作業を行う時は、一人で行わず二人体制をとるなど複数人で確認をする。
⑯0 歳児 女児 16 : 45	令和 5 年 1 月 27 日 16 : 45	夕方に 0 歳児 11 人で遊戯室で遊んでいた。片付けをし避難車に子ども達を乗せたところ、本児が口に何かが入っているような口の動きをしている事に気付く。すぐに確認したところ、絵	日頃より何でも口に入れてしまう本児の行動に気を付けるとともに、遊ぶ場所の安全確認を行うこと。そして、玩具を出した時には、しっかり数を確認すること。また、出す玩具の選択、設定の仕方を考

		本の切れ端とバトルゲームの駒が出てきた。	えるなど保育環境を整える事に努める。
⑩3 歳児 女兒	令和 5 年 3 月 22 日	給食を食べ終えた本児が目にハンカチを当てていた。保育士が声をかけると「葉っぱが入った」と訴える。痛い場所を確認してみると左上眼瞼裏に草が入り込んでいた。(午前中河原の土手で鬼ごっこをしている時同じ所が痛いと訴え保育士が葉を除去した) 午睡明けにも同様に痛みを訴え確認するとまだ草が入っていた。	異物が目に入った場合はくまなく確認し、すべて除去するとともに、その後の状態も経過観察していく。(当日、看護師不在であった) 看護師が不在の際は、速やかに園長に報告し確認していくことも行っていく。

令和4年度

地域子育て支援センター事業報告書

令和4年度は、地域子育て支援の拠点としてコロナ感染症対策を講じながら、子育て中の親子の居場所の提供を行いました。感染拡大の影響で思うように行動ができない状況でありましたが、親子で安心して利用できる場所、今、心配な想いを話することができる場所としての活動をすすめてまいりました。

1 子育て親子の交流の提供と交流の促進

就学前の在宅の親子を対象に、子育て不安の解消や保護者同士の交流の場を提供した。

(1) 赤ちゃん広場

- ・実施日 毎週火曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳未満の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども125名、母113名、父4名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごすことを中心とし、母親同士の交流の場を図る。
保育士による手あそび、親子のスキンシップ、触れ合い遊び
絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡単な製作活動の実施

(2) ぴよぴよ・わくわく広場

- ・実施日 毎月木曜日 9:30～12:00
- ・対象 1歳から3歳くらいまでの就園前の乳児と保護者
- ・延参加者数 子ども31名、母25名、父1名、祖母1名
- ・内容 親子でゆっくりと過ごしながら子ども同士でのあそびを楽しむとともに親同士の交流を図る。
保育士による手あそびや歌あそび、乳幼児向けの体操や絵本や紙芝居の読み聞かせ、簡単な製作活動の実施

(3) キッズガーデン

- ・実施日 毎月第4月曜日 10:00～12:00
- ・対象 0歳から就園前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども6名、母6名
- ・内容 保育士とともに親子で保育園園庭周辺、畑にて遊ぶ。
5月30日（月）水分子どもの家の園庭にて実施

(4) 親子の広場

- ・実施日 毎週月曜～金曜日 12:00～16:00
毎週土曜日 10:00～15:00

- ・対 象 0歳から就学前の乳幼児と保護者
- ・延参加者数 子ども52名、母36名、父4名、祖母3、その他1名
- ・内 容 親子でゆっくりと遊ぶことができ、時間内であれば自由に立ち寄る場所として開放する。

2 子育て等に関する相談・援助の実施

- ・実 施 日 毎週月～金曜日 9:00～17:00 毎週土曜日 9:00～15:00
- ・対 象 子育て中の親またはその関係者
- ・内 容 来園または電話による相談
園の看護師、栄養士、重点的な支援が必要と判断された親子（家庭）については、町内支援センター、保健師、役場担当課との連携と協働をはかりながら対応

・相談実績

相談内容	件数
基本的生活習慣	8
発達・発育	1
しつけ育児	4
医学的問題	0
行政・保育所・幼稚園	0
一時保育	2
その他	8
合計	23

3 地域の子育て関連情報の提供

子育て中の親子が必要とする身近な地域の子育てについての様々な情報を提供した。

- ・しわっせ、子育て支援ひろば、また保健センター同士、情報の交換・連絡・共有をし、広場開設時に利用者に提供した。
- ・研修・経験などで得られた専門知識を広場開設時に提供した。
- ・センター通信を発行した。（センター予定表・子育て情報・食育情報を各1回／月）
地域の方々にもセンターの情報を知っていただくためにセンター予定表を配布した。
（志和公民館、水分公民館、紫波町社会福祉協議会等）

4 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施

- ・広場開設時における親子体操、絵本の読み聞かせ、製作等の実施 各8回／月程度
- ・助産師を講師に迎えての広場 年4回
内 容・・・赤ちゃんのスキンケア
離乳食の進め方について
へこ帯を使用した抱っこや
おんぶの仕方、子育て相談



5 地域支援活動の実施

(1) 子育て支援ひろば（にこにこひろばと合同）

- ・実施日 7回／年 延べ参加人数 子ども 51名、大人 43名
- ・対象 0歳から就園前の子どもとその保護者
- ・内容 にこにこひろばへ出向き、親子に遊び方を提供、又は託児

6 世代間交流

(1) 高齢者ボランティア講座「そよかぜクラブ」の開催

支援センターを拠点とし、地域の高齢者と広場参加者、在園児との交流を実施した。

- ・実施日 毎週金曜日 9:30～12:00
製作や行事、畑手入れ等により実施日を増やす月もあった。
- ・対象者 保育園近隣在住の高齢者
- ・内容 園や支援センターの畑づくり、乳児用エプロン作り、運動会のメダル作り、卒園児へのコサージュづくり、在園児との行事参加や交流（畑作り、みずき団子など）
- ・登録者数 8名（延べ参加人数 165名）

(2) 卒園児との交流（ホームカミングデー）

卒園後の子どもたちの見守りの試みとして計画をたて、実施した。

- ・実施日 1月10日（火）～1月13日（金） 13:00～15:00
- ・内容 保育園で作ったみその配布と近況報告（保育園玄関で実施）
- ・参加者数 令和元年度から令和3年度までの卒園児対象
小学生 67名、大人 68名



7 特別支援活動の実施（たんぽぽルーム）

特別な支援が必要な子どもを含め、すべての子またはその保護者が集う場としての計画を立てましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催には至りませんでした。

令和4年度

けやき学園 事業報告書

障がいのある方への生産活動の場の提供と生活介護事業を展開し、個々の能力を引き出すことを目標に、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、利用者お一人おひとりの特性と適性に応じて次のような事業を実施しました。

1 事業所運営に関すること

(1) 利用登録者数について

- ・利用定員 50名（就労継続支援B型事業44名、生活介護事業6名）
- ・当期末登録者数 43名（B型37名、生活介護6名。男性22名、女性21名）
（紫波町37名、花巻市6名）
- ・平均年齢 40.2歳（男性39.5歳、女性41.0歳）

(2) 開所日数

- ・年間開所日数 238日（前年度より2日減）
- ・月平均開所日数 19.8日

(3) 利用者数

- ・年間延べ利用者数 8,833名（前年度比-337名）
- ・1日の平均利用者数 37.1名（前年度比-1名）

(4) 職員体制について

- ・常勤職員 14名

(5) 事業稼動について

- ・生産活動の機会を提供する就労継続事業、訓練作業や情操活動等を取り入れた生活介護事業において、利用者個々の適性と特性に合わせた支援に努めました。

(6) 運営費（自立支援給付費）収入 76,184,751円（前年度比-2,090,849円）

【対予算達成率98.3%】

2 利用者支援に関すること

(1) 個別支援計画の作成および記録の整備について

- ・ご本人の意向を尊重し、支援計画書を前後期2回作成し、適正な支援に努めました。
- ・利用者個々の日常に関する記録（ケース記録）の整備に努めました。

(2) 生産活動において、個々に応じた適正作業に結びつけられるよう支援に努め、新規の作業種を導入したこともあり、下記の結果となりました。

印刷科	3,040,390円	手拭、タオル、Tシャツ、ジャンパー等の印刷 (前年度比-167,332円)
障子襖科	2,085,952円	障子、ふすま及び網戸の張り替え (前年度比-872,118円)
受託科	1,776,327円	調味料容器のキャップ締め、菓子袋のシール貼り、部品組立、廃プラスチックリサイクル、花植えプランター他

		(前年度比 +214, 874 円) 参考) キャップ回収量 2, 962 kg (前年度 2, 720 kg)
計	6, 902, 669 円	(前年度比-824, 576 円) 【対予算達成率 90. 8%】

利用者への工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 5, 204, 130 円 (前年度比 +802, 290 円)
【対予算達成率 98. 7%】
- ・一人当たり月平均支給額 11, 695 円 (前年度比 +2, 188 円)

(3) 生活介護事業について

- ・ウォーキングや創作活動を中心に意欲的に活動参加できるよう、家庭連絡及び職員間で連携を図りながら実施しました。

(4) 給食提供と健康支援について

- ・体重測定と嗜好調査を行い、健康支援と昼食メニューに反映させました。
- ・国内及び地元産の食材使用を基本に、刻み食やおかゆ食、アレルギー除去、病人食など（毎食対応 13 名）、体調と病状に合わせた食事提供を行いました。
- ・食事介助を要する方への個別対応や誤嚥防止対策、食事場所を 3 か所とし、座席間隔を取ることやアクリル板を設置するなどのコロナ感染防止の対策を取りました。
- ・利用者希望メニュー 66 回、郷土料理 48 回を提供しました。
- ・嘱託医による健康診断とインフルエンザ予防の集団接種は実施を見送りました。
- ・家庭での通院対応が困難な利用者への通院付添を行い、病状把握に努めました。

(5) 行事、クラブ活動等について

①行事等

- ・クラブ活動を含めて例年実施している行事は新型コロナウイルス感染症対策により、実施できませんでした。小グループでの花見会や散策などを実施しました。

②インターネット閲覧の日を適宜設定しました。

③花壇の花植えや作業合間でのウォーキングなどの活動、施設内装飾づくりなどを適宜取り入れました。

(6) 本人活動や自治会活動への支援については、日常での改善点などを会議や係活動を通して意向を取り入れるよう努めました。

3 その他の事業・活動について

- (1) 苦情及び相談業務においては、職員間の共有と迅速な対応および改善に努めました。
- (2) 当社協 S D G s (持続可能な開発目標) 宣言を意識した取り組みを実施しました。
- (3) 体験利用・実習の受け入れ 体験利用 2 名 1 支援学校、1 施設
授業実習 7 名 4 校 (中学 2、大学専門学校 2)

令和4年度

さくら製作所 事業報告書

障がいのある方が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会・生産活動その他活動の機会を提供し、知識及び能力の向上に必要な訓練等を適切かつ効果的に行うことを目的に、各種事業を実施した。

1 事業所運営に関すること

- (1) 利用登録者数について 定員 20 名
- ①当期末 登録者数 20 名（男性 6 名、女性 14 名）
（紫波町 14 名、矢巾町 5 名、花巻市 1 名）
- ・平均年齢 48.7 歳（前年度比 +2.6 歳）
- ②年間の移動状況（新規利用者 2 名・就労及び他施設者数 1 名・退所者数 0 名）
- (2) 事業所開設日数
- ①年間延べ開所日数 239 日（前年度比 +1 日）
- ②月平均開所日数 19.9 日（前年度比 +0.1 日）
- (3) 利用者数
- ①年間延べ利用者数 3,654 名（前年度比 -11 名）
- ②1 日の平均利用者数 15.2 名（前年度比 -0.2 名）
- (4) 職員体制
- ①常勤職員 5 名
- ②パート職員 3 名
- (5) 運営管理について
- ①関連機関との連絡調整会議等参加（支援会議等） 44 回
- ②県内外研修会参加 3 回
- ③避難・防火訓練実施 2 回
- (6) 運営費（自立支援給付費）収入 30,611,083 円（前年度比 +308,389 円）

2 利用者支援に関すること

- (1) 個別支援計画（日常生活・就労支援他）の作成
定期面談を実施し、個人ごとに本人の意向を重視した支援計画の作成に努めました。
- (2) 生産活動において、個々の能力に応じた適性作業に結びつけられるよう支援に努め、下記の結果となりました。

区 分	総売上高	作 業 内 容
受注作業部	1,821,697 円	返礼品箱詰め作業、調味料のミニボトルのキャップ、工業関係部品の組立、フルーツキャップ他 （前年度比 +63,845 円）

外販促進部	91,080 円	さくら製作所施設内において、休憩時間を利用して、コーヒー・お茶等の提供活動他 (前年度比 -810 円)
就労促進部	2,189,765 円	メール便の配達他 (前年度比 -347,242 円)
計	4,102,542 円	(前年度比 -284,207 円)

(3) 利用者工賃支給について

- ・年間工賃支給総額 3,693,656 円 (前年度比 +368,231 円)
- ・一人当たり月平均支給額 16,271 円 (前年度比 +947 円)

(4) 一般就労の推進

就労希望者に対して、ハローワークや就労支援に関わる関係機関と連携し、就労に向けた支援を実施した。

- ①令和4年度の一般就労者数 0 名

(5) 嘱託医による健康診断の実施

①実施回数

- ・健康診断 2 回
- ・予防接種を集団で実施
- インフルエンザワクチン 1 回
- コロナワクチン(4 回目) 1 回

(6) 行事・余暇活動

①行事

- 3 回
- ・日帰り旅行（八幡平・南花巻方面）・リフレッシュ教室を実施（参加）した。

②施設内行事

- 4 回
- ・季節行事（節分・ひな祭り・成人の祝い等）として食事会を実施した。

3 その他の事業・活動について

(1) 送迎サービス

- ①送迎サービス利用者数（当期末現在） 17 名

(2) 苦情解決

当事者等からの苦情（不安や悩みを含む）があった場合、適切に対応し今後の事業所運営に反映させる体制の整備に努めた。

- ①苦情受付件数 0 件
- ②その他相談受付件数（コミュニケーションに関する事） 3 件

(3) 事業所利用体験実習、視察、学生体験実習等の受入れ

- ①年間事業所見学者数（当事者他） 13 名
- ②年間事業所施設体験・実習者数（当事者） 5 名